

建設業の魅力 やりがい訴える

青柳群馬建協会長
職人訓練校で講演

群馬県建設業協会の青柳剛会長は17日、建設職人を育成する利根沼田テクノアカデミー（群馬県沼田市）で研修生向けに講演し、ものづくりを通じた建設業の魅力ややりがいなどを訴えた。写真。

テクノアカデミーが建設業振興基金から受託して取り組む「厚生労働省建設労働者育成支援事業」の一環として、昨年に引き続き、全国建設業協同組合連合会会長も務める青柳会長を講師に招き、「かたちになる『やりがい』々々、建設業がおもしろい2020」をテーマに講演した。

青柳会長はまず、災害復旧などで人命を守る「安全」、裾野の広い経済効果などで豊かな生活を支える「安心」、インフラ整備などで暮らしを支える「快適」が、建設業の大きな3つの役割だと説いた。土木と建築、ゼネコンとサブコンの違いなども説明し、技術者と技能者については「指揮者と演奏者」の関係に置き換えられると分かりやすく解説した。専門工事会社の仕事は「地球の彫刻家とも言われる」と例えた。

また、建設業就業者や設計



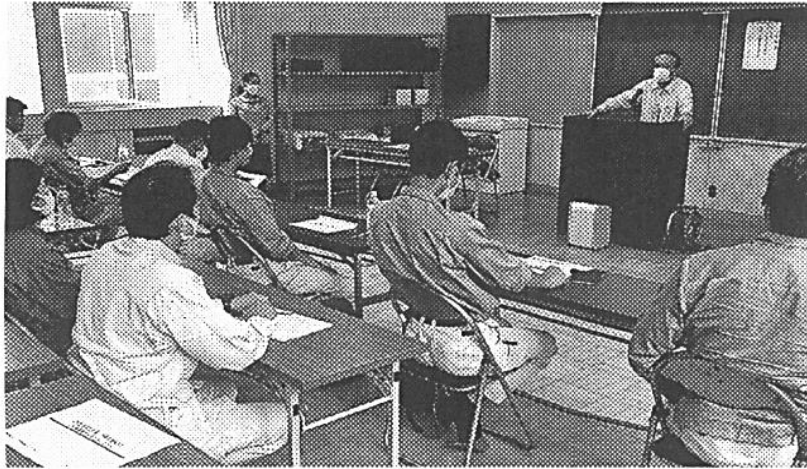
労務単価の推移、改正担い手3法の内容、女性活躍の推進など、業界の動向も説明。充実した各種研修や率先した新型コロナウイルス対応など、協会の最近の取り組みも紹介した。

最後に、地元の小さな建設会社が地域のネットワークを駆使して施工し、建築家・内藤廣氏が日本一きれいなコンクリートと絶賛する年縞博物館（福井県若狭町）を話題に取り上げた。福井県知事がコンクリートの柱に頭をつけたがら、「いい仕事からエネルギーをもらう」と言った逸話を披露した上で、「現場の人は、地域で親戚に言い訳をするようなものをつくりたくない」と考える。自慢できる技術者、職人になるチャンスがある。ものづくりのすばらしさを日々の積み上げで味わえるのが建設業であり、それこそ毎日が誇りややりがいだらけである」と締めくくった。

「建設業は誇り、やりがいだらけ」

群馬県建設業協会の青柳剛会長は、群馬県沼田市にある「利根沼田テクノアカデミー」で17日に講演した。写真。入職促進を目的とした厚生労働省の建設労働者育成支援事業の一環。同アカデミーの訓練コースを受講している9人に建設業の役割や課題、やりがいを話し、「現場で実際に自分で作り上げる仕事だから大きなやりがいを感じるようになる」とエールを送った。「かたちになる『やりがい』—今建設業がおもしろい2020」と題して講演した。団体活動の目的や群馬建設会館

青柳群馬建協会長が講演



の竣工イベントに招いた建築家・内藤廣氏のメッセージな

ども披露した。青柳会長は建設業の役割に、安全、安心、快適を挙げ、建設業が除雪をはじめとする災害復旧や、避難所の感染症対策にも貢献していることを紹介した。

地域建設会社に関し「地域の人から頼りにされるところが建設業で働くやりがいにつながる」と語った。若年技能労働者の減少を建設業の課題に挙げ、処遇改善とともに充実した教育訓練や資格取得支援などの重要性を強調した。民間主導で多能工を育成する意義やメリットも述べた。運用が始まった建設キャリアア

CCUSは新3Kへの節目

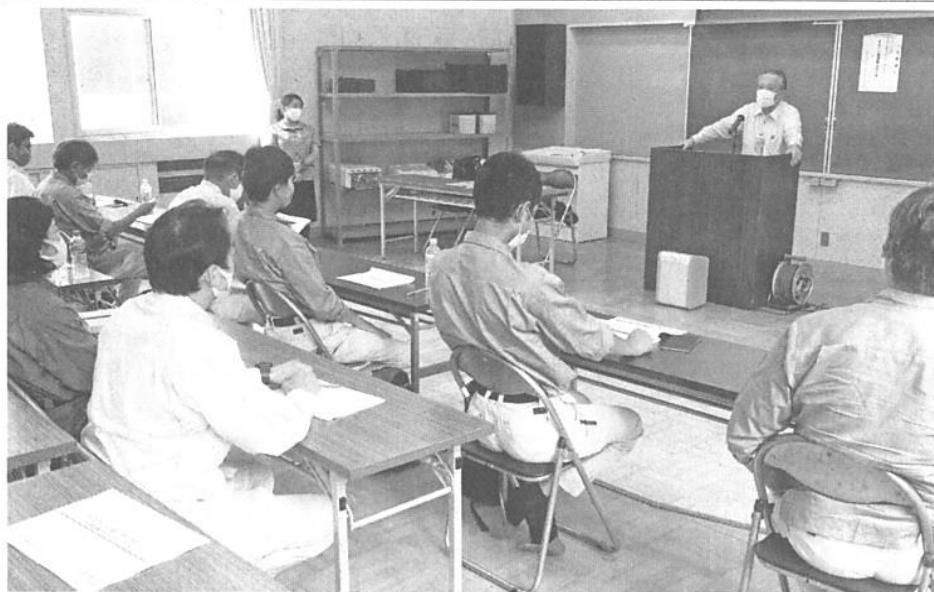
ップシステム（CCUS）には「給与、休日、希望の新3Kに変わっていく節目のシステムのような気がする」と期待した。

新担い手3法と働き方改革を巡る官民の取り組みも紹介。「年度末に工事が集中したり、年度当初が閑散期になったりしないように工夫している」と平準化の対応を説明した。内藤氏に関しては「地域のつながりで作業員が集まって、お互いに顔なじみでいい仕上げをしていくことが建設業の本来の姿」といった講演の内容を披露。その上で「建設業は毎日が誇りやりがいだらけ。頑張ってもらいたい」と激励した。

利根沼田アカデミー訓練生9人に 青柳会長が講演行う

群建協

群馬県建設業協会の青柳剛会長は17日、利根沼田テクノアカデミー（沼田市利根町日影南郷335-1）で訓練生9人へ「かたちになる「やりがい」



訓練生を激励する青柳会長

をテーマとした講演を行った。建設業とは何か、協会の活動についてなど

をこれらの建設業を担う訓練生に対して分かりやすく説明した。

青柳会長は建設業の持つ役割として安全・安心・快適の3つをあげ、他産業にないモノづくりのやりがい特徴だと説明。また、課題として技能労働者の減少と高齢化を上げ、官民一体となって職場の環境や処遇改善が行われていることを訴えた。さらに、協会が行っているリカレントやICT活用研修などを育てる環境整備を行っていることなども示し、建設業で活躍することとなる技術者を激励した。